

日付及び時刻

日付及び時刻のデータは、ISO8601 及び JIS X 0301（日付及び時刻の表記）に準拠し、以下のとおりとする。（ただし、高速処理が必要な場合等、特段の事情がある場合には、独自形式を採用する場合もある。）

1 日付及び曜日

1.1 日付

日付のデータは以下の形式とする。半角を使用する。

YYYY-MM-DD

YYYY : 西暦年 4 桁

MM : 月 2 桁（1 桁の場合には前に 0 をつける）

DD : 日 2 桁（1 桁の場合には前に 0 をつける）

例) 2017-09-01

注) マイクロソフト社 Excel を使用する場合、日付書式を「英国」の中の
YYYY-MM-DD を選択

1.2 曜日

曜日のコード及びデータは、以下のとおりとする。

1:月曜日

2:火曜日

3:水曜日

4:木曜日

5:金曜日

6:土曜日

7:日曜日

「曜日」を省略し「月曜日」を「月」と記入してもよい。
列挙する場合には、月曜日から順に記入し、「曜日」はデータに含まない。

例) 12345
月火水木金

2 時刻

時刻のデータは、以下の形式とする。

HH:MM:SS (秒は省略可能)

HH : 時間 (24 時間表記。1 桁の場合には前に 0 をつける)

MM : 分 (1 桁の場合には前に 0 をつける)

SS : 秒 (1 桁の場合には前に 0 をつける)

1 秒未満の時刻を必要とする場合においては、それぞれの要件に従い、小数表記をする。このような表記を含むデータを提供する際は、小数点以下の桁数等、データ形式情報を提供することを推奨する。

3 日付と時刻の組み合わせ

日付と時刻は、「日付」と「時刻」の 2 つのデータ項目で設定することが望ましい。

日付と時刻を 1 つのデータ項目で持つ場合には、国際標準に従い日付と時刻の間を「T」で接続して表現する。グローバルにデータ連携をする場合は、必要に応じて UTC (協定世界時) と地方時の時差を表記する。具体的には、UTC (協定世界時) に対して地方時が進んでいる場合は「+」、遅れている場合は「-」記号を用い、以下の例のように表現する。なお、時差のない場合には「=+」とする。

YYYY-MM-DDTHH:MM:SS+hh:mm

hh : UTC に対して進んでいる「時」

mm : UTC に対して進んでいる「分」(通常は 00)

例) 2017-09-01T09:30:00+09:00 (日本)

例) 2017-09-01T00:30:00=+ (英国)

4 期間

期間は、「開始日」、「終了日」と「開始時刻」、「終了時刻」の4つのデータ項目で設定することが望ましい。

期間を1つのデータ項目で持つ場合には、国際標準に従い以下のとおりにする。

4.1 基本構造

期間の開始日時と終了日時を/でつないで、「開始日時/終了日時」とし、次のとおりとする。

YYYY-MM-DD/YYYY-MM-DD

4.2 時刻を含むとき

期間に時刻を含むときは、「3 日付と時刻の組み合わせ」の方法を組み合わせ、次のとおりとする。

YYYY-MM-DDTHH:MM:SS+hh:mm/YYYY-MM-DDTHH:MM:SS+hh:mm

4.3 年が同一のとき

期間の年が同一のときは、年の部分を省略して、次のとおりとする。

YYYY-MM-DD/MM-DD

4.4 月まで同一のとき

期間の年及び月が同一のときは、年及び月の部分を省略して、次のとおりとする。

YYYY-MM-DD/DD

5 特記事項

日付及び時刻に関して、「金曜日は17時まで」等の特記事項を記載する場合には、上記のデータ項目内に記述するのではなく「備考」のデータ項目を付加し対応する。

また、うるう秒の扱いは、情報機器やオペレーティングシステムの仕様に依存するため、うるう秒挿入時のログ分析等を行う際には留意すること。

「3 日付と時刻の組み合わせ」において、時差表記部分（+もしくは-以

降) を一般的に使われる「hh:mm」としているが、必要に応じて「hh:mm:ss」としてよい。

6 解説

6.1 拡張形式の適用

ISO8601 では、日付及び時刻の表記に基本形式と拡張形式がある。基本形式は、YYYYMMDDTHHMM+hhmm であり、視認性が悪いため、日付にハイフン、時刻にコロンを使用する拡張形式を使用する。

6.2 年月日の表記

国内では、年月日を記載する際に「YYYY 年 MM 月 DD 日」又は「YYYY/MM/DD」と記載することが一般的であるが、システム内やグローバルなデータ連携では国際標準に従い「YYYY-MM-DD」を使うことが多い。本標準はデータ連携用標準であることから、「YYYY-MM-DD」を採用した。

6.3 和暦との変換

入力や表示・印字において和暦年を使う場合には、入力時には入力データを和暦から西暦へ変換し、データは西暦で管理する。逆に出力時には西暦から和暦へ変換して表示する。同様に、入力や表示・印字において12時間制を使う場合には、データは24時間制で管理し、入出力時に変換する。

例：入力 [平成 27 年] →システム内 [2015]

システム内 [2015] →出力 [平成 27 年]

7 変更履歴

日付	位置	変更内容
2019年3月28日	-	初版決定
2017年12月7日	-	α版公開